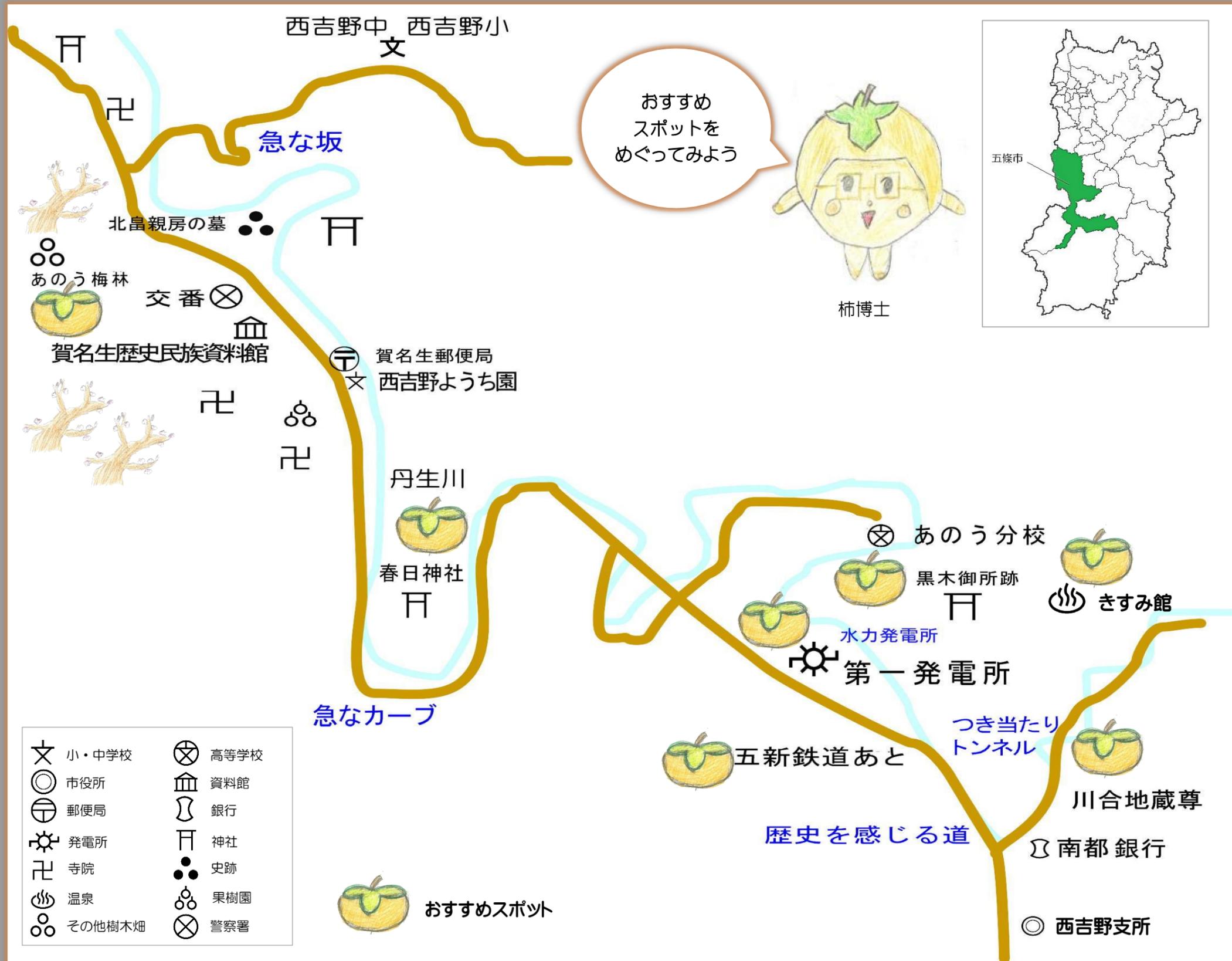


五條市西吉野・大塔観光マップ

歴史と味覚☆星のまち Ver.賀名生地区

発行：五條市立西吉野小学校 平成28年度6年生
この観光マップは「ふるさと学習」の活動として子どもたちが作成しました



柿の里 西吉野



五條市マスコットキャラクター
「カッキー」

西吉野小学校の紹介

西吉野小学校は、奈良県西南部、吉野山岳地帯の北西部に位置している。平成23年の紀伊半島大水害により、平成24年度から大塔小学校の児童が西吉野小学校に通学するようになり、とても校区の広い学校となった。校区には、古い文化と歴史的な史跡が多数存在している。また、地場産業の柿・梅・梨等の果樹栽培に精励し、中でも柿・梅は、全国的な特産品として知られている。

広い校区をもつ西吉野小学校では、「総合的な学習の時間」に、『ふるさと再発見』をテーマに、地域に伝わる歴史や文化、地域の特産品を子どもたち自身が調べ、発信していく活動を行っている。



星のくに 大塔

五條市マスコットキャラクター
「星博士」

イラスト：6年生の子どもたちが描きました

さあ！でかけよう！

幻の五新鉄道



賀名生梅林

賀名生（あのう）は、奈良県五條市（旧吉野郡西吉野村）にある丹生川の下流沿いの谷で、一時、南北朝時代に南朝の皇居が置かれた場所です。賀名生梅林は、丘陵をふもとから中腹までおおいつくすように2万本の梅が咲き誇る見事な梅林です。五條市は果樹栽培が盛んで、特に柿の生産量は全国有数ですが、梅の栽培も盛んで、3月には甘い香りがたぐよいます。

明治時代末期に五條市から十津川村をとおり新宮市までを結ぶことになりました。昭和12（1973年）から工事をし、吉野川をとおり生子トンネルをかん通しましたが、太平洋戦争が始まり、物資不足などの理由により中止されました。戦後、工事が再会され昭和34年（1959年）に五條市と西吉野村城戸までの路ばん工事が完了しました。五條市から城戸間での道の設置だけでしたが、経済の変化などにより五新鉄道は夢に終わってしまいました。五新鉄道の名前の由来は五條市と新宮市の五と新の二文字を取り五新と名付けられました。

※現在五新鉄道跡は危険のため立ち入ることはできません。



西吉野第一発電所

西吉野第一発電所は水力発電所で運転を開始したのは昭和31年11月11日です。この水力発電所は、くまの川と言う川の水をつかっています。そして一度さる谷ダムにためられ、その後231.3メートルの高さのパイプを通ります。そして、落ちた水が水車を回し発電機で、電気をおこします。一番電気を起こせるときには、3万3千キロワットでかんたんに、計算すると1万1千の家庭の電力をまかなうことができます。



川合地蔵尊

昔、この辺で子供の事故が多くあり、不幸が相次いでいたそうですが、このお地蔵さんをおいのりしてからは減ったそうです。7月24日の例祭は立派なもので、昔は大型車にカラオケ一式を積んで舞台として使うほど大きなお祭りだったという事です。川合地蔵尊は南都銀行の横にあります。

南朝は、吉野朝廷ともしょうされ、南北朝時代に京都以南の大和国の吉野（奈良県吉野郡吉野町）、賀名生（同県五條市西吉野町）、摂津国の住吉（大阪府大阪市住吉区）を本拠とした大覚寺統後醍醐天皇に属する朝廷。西吉野温泉の歴史は古く、南北朝の時代には西吉野へ向かわれる途中に天皇が立ち寄り、旅のつかれをいやされたということが伝わっています。湯元はきすみ館からさらに1キロメートルほど南の丹生川支流の河原にこんこんとわきでていました。この地は昔は塩川原とよばれており、名のとおり温泉の泉質は、塩分を多くふくみ、やわらかく、リュウマチや神経痛、ひき労回復に効果があります。幕末のころから温泉宿がのきを並べ、街道を往来する旅人の良い宿場となっていました。



きすみ館

黒木御所跡

西吉野の向加名生に春日神社があります。そして、黒ぶちにも、国の重要文化財春日神社があります。黒ぶちの春日神社には、黒木御所があります。黒木御所とは、皮をけずっていない木材を用いて建てられた天皇の御所のことです。後村上天皇の皇子長慶天皇は吉野で生まれ、5才くらいの時に賀名生にいられて16年間在位されているので南朝四帝になるのでは？とされています。そして、後鳥山帝は長慶天皇の弟君だということです。

